

I 本調査研究の目的

教科書は、教科の主たる教材として、児童・生徒の学習上、常に使用されるべきもので、学校教育のうえで重要な位置を占め、その果たす役割はきわめて大きい。

最近、化学物質過敏症の児童・生徒が教科書を使用すると、頭痛、めまい、吐き気などの症状が出て、体調が悪化するという事例が報告されている。しかし、それと教科書素材との関連性の有無については、先例がない現段階では直ちに結論が出るものではない。化学物質過敏症の児童・生徒の体調の悪化と教科書とがどのような因果関係にあるのか、それを解明し、児童・生徒への対応と教科書素材の在り方を調査研究することは重要な問題である。

そのため、当委員会では、まず、事例が報告されている児童・生徒の症状と在籍する学校の現状などの実態調査を行い、また、教科書の素材自体を調査分析し、化学物質過敏症の児童・生徒の体調悪化との因果関係を明らかにしていくという両面から取り組むことにした。

1. 化学物質過敏症の児童・生徒の体調悪化の実態と教科書との関係について調査研究を行う。
2. 教科書を構成する素材の成分分析について調査研究を行う。
3. 輸送及び保管方法による化学物質の吸着の実態と、化学物質の吸着しにくい輸送及び保管方法について調査研究を行う。
4. 化学物質過敏症の児童・生徒の健康に影響が少ない教科書モデルの素材について調査研究を行う。
5. 調査期間

平成 15 年 7 月 9 日～平成 16 年 3 月 31 日